

# 伊奈吉物語

★ INAKICHI MONOGATARI ★



## 第 4 話

Episode 4

公益財団法人いきいき埼玉





「おいしい！！」

伊奈吉の つくった <sup>りょうり</sup>料理を たべて  
なかまたちは もとのように  
いきいきと しはじめました。

伊奈吉は それをみて  
ほえたいくらい うれしく なりました。

人間は いいました。

「食は <sup>しょく</sup>いのちの <sup>みなもと</sup>源。

うまい 食べ物で なかまを ささえる ことも、  
また あっばれな わざよ」

こうして 伊奈吉は、  
にがてな 狩りの かわりに  
なかまに 料理を つくって  
ふるまうように になりました。



やがて、人間は  
また 旅に できることになりました。  
この 人間は 旅を しながら、あちらこちらの  
土地や 水辺を しらべていると いいました。

人間は 伊奈吉に いいました。

「もっと 料理が まなびたいなら  
いつか、わたしの 国を たずねてみては どうだ。

わたしの 国の 者たちも、やはり  
料理すること、たべることが すきでな。

わたしの なまえは

『クマゾウ』と いう。

縁が あったら、また あおう」



とき  
時が たち、

伊奈吉は たてがみも りっぱな  
おとなの ライオンに なりました。

むれから いっとう たびだ  
一頭で 旅立つときです。

伊奈吉は アフリカを はなれ、

にほん くに  
日本という 国に

いってみることに しました。

ひろい うなばら  
ひろい 海原を こえて、

伊奈吉は はるばる

にほん  
日本を めざしました。

